

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1.知識・理解	2.技能・表現	3.思考・判断	4.課題志向性	5.統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2
17UFNA1006	調理学実習Ⅱ	1	食の専門家として調理学実習Ⅰで学んだ調理の知識や基本技術を展開させ、管理栄養士としての実践力を養う。 本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	調理学実習Ⅰで学んだ基礎的な知識や技術をもとに、専門的な調理操作や食品の調理特性を科学的に理解し、実践に結びつけられる技術の習得を目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	◎												
17UFNA1007	食文化論	1	世界各地の食文化の事例を通じて、多様な文化の生活習慣を学ぶとともに、その背後にあるものの見方・考え方を理解する。自らの食文化を絶対化せず、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養い、多文化共生時代に必要な基礎知識を身につける。	世界をみるための多様な視点の存在を理解し、想像力を養い、自ら考え、積極的に学び、広い視野からものごとを見る素養をつける。 自分の考えかた・習慣・常識を絶対視せず、栄養指導を行う際にも、異文化を背景にもつ多様な人々の価値観を尊重し、これに寄り添った形で食事メニューを考え、提言できる能力を養う。		◎	○	○	○												
17UFNA1008	TOEIC PreparationⅠ	1	近年、英語力を必要とする企業が増え、社会全体で「英語」を重視する傾向が強くなっている。英語力を測る一つの手段であるTOEICは、身近な事柄からビジネスに関連する事項まで、幅広くコミュニケーションを行う能力を測る目的で作られている。本授業では、TOEIC受験で必要とされる力を身に付けることを目的とする。	TOEICテストで用いられる5つのアクセント（アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド）に慣れることを含め、リスニングやリーディングへの恐れや不安を軽減し、「聴けること・読めること」の楽しみを知る。また、短時間に必要な情報を効率的に読み取ることができるようになる。																◎	
17UFNA1009	TOEIC PreparationⅡ	1	近年、英語力を必要とする企業が増え、社会全体で「英語」を重視する傾向が強くなっている。英語力を測る一つの手段であるTOEICは、身近な事柄からビジネスに関連する事項まで、幅広くコミュニケーションを行う能力を測る目的で作られている。本授業では、TOEIC受験で必要とされる力を身に付けることを目的とする。	前期に開講したTOEIC PreparationⅠで学習した内容を踏まえ、TOEIC各パートの傾向を知ることによって確実な得点アップを図ると同時に、英語を英語のまま聞き取り、読み取るという練習を重ねることで実際に「ビジネスシーンで役立つ英語」の修得を目指す。																	◎
17UFNA1010	サイエンス英語Ⅰ	1	Learn simple words, phrases and expressions in the nutrition, dietetic and food industry. Develop reading comprehension on topics related to nutrition, dietetics and food science. Some English communication.	To learn new knowledge of nutrition, developing nutrition skills and knowledge through English.			○	○	○	○											◎
17UFNA2011	サイエンス英語Ⅱ	2	西洋における食生活がどのようなものであるのか、その提案者自身の著書からサイエンス英語として学ぶ。食生活という概念が日本の現代栄養学で受け入れられる余地があるかどうかを討論し、日本語の教科書には取り上げられない独創的な概念や新しい知識を科学における共通語である英語を介して、修得できることを知ることを目的とする。	新しい知識や概念がどのようにして出来上がるのかについて、英語を介して修得できることを知ることを目標とする。		○		○	○	○	○			○	○	○	◎	○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1.知識・理解	2.技能・表現	3.思考・判断	4.課題志向	5.統合的能力	1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4							
17UFNA2024	解剖生理学実習Ⅱ	2	解剖生理学実習Ⅰでは、組織標本の観察を通じて形態と機能との関係を中心に身体の機能を学んできたが、解剖生理学実習Ⅱでは、実際の生体の機能について実験を通じて理解を深めることを目的とする。	生物学的事象の特性と生体機能の解析方法を理解し、身体の機能を維持するための循環器系の生理機能、筋肉と神経の特性、血液の特性、消化器系の調節機構、泌尿器と呼吸器系の生理機能、感覚器系による情報処理機能について理解する。	○										◎						
17UFNA1025	生 化 学 I	1	本科目は管理栄養士課程に必要な基礎専門科目の人体の構造と機能の分野に分類される。本科目は栄養関連科目等の専門科目を理解するための基本科目であり、既修得の基礎生物化学および本科目によって栄養素の代謝を体系的に理解し、代謝に関する知識を体系化することを目的とする。	2年次専門科目の学習に必要な生化学の基礎知識の修得と理解度の向上を到達目標とする。	○	◎		○	○	○	○	○	○	○							
17UFNA2026	生 化 学 II	2	本講義は、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の分野に含まれ、生化学Ⅰに引き続き栄養素の代謝を体系的に理解し、代謝調節に関する知識を体系化する。さらに、情報高分子の構造と機能、生体防御と免疫についてその機構を系統的に理解する。	栄養素の代謝を学び、代謝とホルモン作用や生体防御などの関連性について、理解する。また、獲得した知識を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題(食後と食間の代謝)にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につける。 ①糖質・脂質の代謝を理解し、糖質・脂質の代謝関連性を修得している。 ②タンパク質の分解とアミノ酸プール、アミノ基の窒素の排出を理解する。 ③アミノ酸の代謝、アミノ酸の利用と生産物、アミノ代謝異常を修得している。 ④ヌクレオチドの代謝について理解する。 ⑤遺伝子発現とその制御について理解する。 ⑥ホルモンの作用機序について理解する。 ⑦情報伝達の機序について理解する。 ⑧生体防御と免疫について理解する。 ⑨活性酸素に対する生体防御について理解する。												◎		○	○	○	○
17UFNA2027	生 化 学 実 験	2	生化学および関連科目で修得した知識を基礎として、生体成分、代謝酵素等に関する実験によって、生体成分の分離・検出方法や酵素活性測定方法等を修得する。基礎から応用まで種々の分析技術、方法を駆使して、生命現象・栄養素の代謝についての理解を図ることを目的とする。	実験技術とレポート作成が一定のレベルに到達するまで教育する。	○	○		○	○	◎	◎	○	○								
17UFNA3028	臨床病原微生物学	3	新栄養士法では健常者から傷病者への対応が重視され、管理栄養士が共同医療従事者として働く為に必要な事項が規定されている。医療現場において感染症は非常に重要な問題となっている。そこで、感染症を引き起こす外来生物(原虫、真菌、細菌、ウイルス等)の詳細についての基礎的な知識を修得することを目的とする。	医療現場、老人介護の現場だけでなく、1人の女性として生きていく上において必要とされる感染症の知識を感染経路や疾病発現機構、さらに予防法や治療法についての知識を修得することを目標とする。	○	◎		○											○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 課題志向性	5. 統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2
17UFNA2029	臨床医学Ⅰ	2	傷病者に適切な栄養管理を行うためには、疾患がどのような原因で正常な機能や代謝に歪み（病態）をきたして発症するのか、また、それをどのように診断し、治療をするのかを把握することが必須である。	管理栄養士として必要とされる医学的知識を獲得することにある。臨床医学Ⅰでは、以下の項目の習熟を目的とする。 疾病の成り立ち - 病理学的概念を学習する 臨床検査の基本 - 検査所見の読み方を学習する 疾患治療の基本 - 基本的な治療法を学習する 代謝・栄養系疾患 - 栄養管理が治療の中心となる疾患として以下の各論を学習する 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 高尿酸血症・痛風 先天性代謝異常 ダンピング症候群 摂食障害 循環器系疾患 - 栄養管理が重要である疾患として以下の各論を学習する 狭心症と心筋梗塞 心不全 高血圧と不整脈	○	◎															
17UFNA3030	臨床医学Ⅱ	3	傷病者に適切な栄養管理を行うためには、疾患がどのような原因で正常な機能や代謝に歪み（病態）をきたして発症するのか、また、それをどのように診断し、治療をするのかを把握することが必須である。本科目では、それぞれの疾患について概要を学ぶとともに、疾病の病態との関係から栄養管理を考える能力を育成する。	①それぞれの疾患の概要、病因、病態、診断、治療について理解する。 ②疾患の病態に応じた栄養管理を考えることができる。	○	◎	○	○	○												
17UFNA3031	臨床学実習	3	基本的な疾患の症例に関するグループワークやプレゼンテーションを通じて、管理栄養士として必要な問題抽出能力、自己学習能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成することを目的としている。	①症例に関する問題点を抽出する能力を身につける。 ②あるテーマごとに、限られた期間に必要な情報を収集して、まとめる、自己学習能力を身につける。 ③作成した資料をわかりやすくプレゼンテーションする能力を身につける。 ④グループワークで、相手の話を聞き、自分の意見を的確に言える、コミュニケーション能力を身につける。 ⑤それぞれの疾患ごとに、症例の病態に応じた栄養管理のポイントを理解できる。	○	○	◎														
17UFNA1032	食品学（加工含む）	1	食品は、非常に身近なものでありながら、その形態および成分組成は多種多様である。本科目では、食品とは何かを理解するために、食品に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する基礎知識を習得する。なお、卒業必修科目であり、また、管理栄養士・中高一種（家庭）免許など各種（受験）資格などの取得のために必要な科目でもある。 本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本科目では、自ら考え、食品成分やその物質の変化についてイメージできるレベルまで到達することを目標とする。そのために、今まで知識として単に記憶していた食品成分に関わる事柄についても、基本的な仕組みから科学的に十分に理解・把握できるように取り組んでほしい。 さらに、科学的な根拠にのっとり、栄養学的・生理学的な見地からも食生活を考えていくことができるようになるための礎を築く。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 課題志向性	5. 統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1
17UFNA2053	臨床栄養学Ⅱ	2	臨床（病院、施設など）において、病いと闘っている患者さんの幸せのために、栄養になにができるのか、を自分の頭で考えられる力と情報を取り入れる能力の獲得を目指す。	栄養の基礎力である「解剖学」、「生理学」、「生化学」の3つの学問を、臨床に実際に使える実力を獲得するため、ひとつのテーマに対して、基本的には2コマをあて、最初の1コマを基礎栄養学であるこれら3学問の基礎学力の習得と応用に充てる。 さらに2コマ目の臨床では、その栄養基礎学の3学問を臨床栄養にいかに使えるか、の実例を、予めゲットファイルで配布した空欄を、双方向で埋め、考えていく。 その結果、自己学習で各テーマごとにキーワードをピックアップし、そのキーワードの意義と限界を自分で説明でき、実際の患者さんにおける意味や栄養サポートの導入部を展開できる。	◎	○			○					○						
17UFNA3054	臨床栄養学Ⅲ	3	傷病者の病態・病期や栄養状態の特質に基づき、適切な栄養管理を実施するために栄養計画の立案、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考えかたを理解し、栄養評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用、臨床栄養管理について習得する。	1. 糖尿病食品交換表の使用方法を理解し、単位計算、食品構成、献立作成ができる。 2. 栄養管理計画書は、栄養状態の評価、適切な栄養補給法を理解し立案できる。 3. 栄養カルテは、POSに基づきSOAPに沿って作成できる。 4. 各疾患（摂食嚥下障害、身体・知的障害老年症候群、骨格疾患、循環器疾患、脳血管疾患神経疾患・筋疾患、摂食障害呼吸器疾患血液系の疾患、免疫・アレルギー疾患）の特徴を理解し、栄養・食事療法を実施するための具体的な方法を述べることができる。	◎	○			○					○						
17UFNA3055	臨床栄養学Ⅳ	3	傷病者の病態・病期や栄養状態の特質に基づき、適切な栄養管理を実施するために栄養計画の立案、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考えかたを理解し、栄養評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用、臨床栄養管理について習得する。	1. 各疾患（消化器系疾患、手術・術後患者、腎・尿路疾患）の病態や特徴を理解し、傷病者への適切な栄養管理計画が立案できる。 2. 薬（医薬品・健康食品・サプリメント）と栄養・食物の相互作用を理解する。 3. ターミナルケアの目的、家族を加えたチームアプローチの対応によるQOL向上の必要性を理解する。	◎	○			○					○						
17UFNA3056	臨床栄養学実習Ⅰ	3	臨床栄養学を習得後、各種計測による栄養評価・判定方法やベッドサイドの栄養教育などについて実践実習を活用し体得する。	1. 栄養アセスメントの実際を知り、患者とのかかわり方を身につける。 2. ロールプレイによる模擬栄養食事指導を通しては、臨床栄養評価・必要栄養量算定・栄養ケアプランの作成と実施・モニタリング・カルテの記述など病態に応じた栄養管理計画が立案できる。 3. 看護・介護実習を通して傷病者・要介護者への基本的な対応方法を習得し、チーム医療における多職種間連携を理解する。	○	◎					◎			○						
17UFNA3057	臨床栄養学実習Ⅱ	3	臨床栄養学を習得後、特に生理的な特徴や栄養代謝の異常を理解した上で、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた具体的な栄養管理の方法、医療・介護制度やチーム医療における役割について実践実習を活用し体得する。	①病態別に、栄養管理が計画できる。 ②病態別に適切な献立を作成し、調理ができる。 ③栄養管理計画、栄養指導報告書、カルテなどに正しく記録できる。	○	◎					○			○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 課題志向性	5. 統合的能力	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2
17UFNA3063	給食経営管理実習	3	学内での大量調理実習の体験を通じて、特定給食施設における給食の運営を栄養管理・衛生管理・作業管理・経営管理・施設設備管理等で総合的に判断しマネジメントする能力を養う。また、臨地実習Ⅰ（学外実習）に向けて学生個々が、スキルを磨く科目である。	特定多数人を対象とした食事計画に基づき、給食の食材料準備から大量調理、食事と情報の提供、摂取量の確認と後片付けの一連の作業の実際を体験し習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○							
17UFNA4064	管理栄養総合演習Ⅰ	4	演習Ⅰは、ヘルスプロモーション演習、管理栄養士能力向上演習の2部から構成されている。いずれの内容も管理栄養士を目指す学生にとっては、必須の知識および技術である。演習を通して、これら管理栄養士に必要な知識および技術の再確認を図るとともに、管理栄養士として統合された能力の向上を目指す。	ヘルスプロモーション演習では、身体および栄養摂取状況等に関する客観的なアセスメント能力とそれにもとづく健康増進指導技術を修得する。管理栄養士能力向上演習では、管理栄養士に必須とされる知識の復習を進め、その知識の活用へむけて統合する。	◎	◎	◎	◎										◎	◎	◎	◎
17UFNA4065	管理栄養総合演習Ⅱ	4	演習Ⅱは、管理栄養士能力向上のための演習のみから構成される。前期の管理栄養総合演習Ⅰに引き続き、管理栄養士に必要な知識および技術の再確認を図るとともに、管理栄養士として統合された能力の向上を目指す。	前期の演習Ⅰに引き続き、管理栄養士能力向上演習では、管理栄養士に必須とされる知識の復習を進め、その知識の活用へむけて統合する。	◎	◎												◎	◎	◎	◎
17UFNA3066	臨地実習Ⅰ	3	管理栄養士・栄養士の指導のもとに、社会福祉・児童福祉施設等で校外実習（1週間）を行い、施設の特徴および高齢者、乳幼児・児童等の食事内容の特徴について習得する。	①各施設の設立理念に基づき栄養部門が目標遂行に向けて行う業務全般について理解し、部門業務がどのような経営ビジョンによって運営されているかを学ぶ。 ②大学で学んだ給食経営管理の知識や技術が、実際の給食現場においてどのように生かされているかを学習する。 ③栄養管理を実施するに当たり、給食業務の合理化や標準化の観点からどのような工夫や技術が活用されているかを体験しながら学習する。 ④対象者満足のための適時・適温配膳が、どのような作業管理や機器、備品を含めた設備管理のもとで行われているかを学ぶ。														◎	◎	◎	◎
17UFNA4067	臨地実習Ⅱ	4	栄養の側面から、傷病者の病期・病態や栄養状態の特徴に応じた適正な栄養管理について学ぶ。	実践に必要な専門的知識、技能、能力は管理栄養士の実践活動現場である病院の仕事上での課題発見や問題の解決など実習を通して習得、体得する。 ①実習では、管理栄養士に課せられている多種多様な専門分野の基本的能力を養う。 ②管理栄養士に求められる知識、技能、洞察力、考察力、態度、言葉遣いなどの総合能力を実習を通して養う。チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションのとり方などの実践的能力を養う。														◎	◎	◎	◎
17UFNA4068	臨地実習Ⅲ	4	公衆栄養学の臨地実習においては、保健所および保健センター等の活動の実際ならびに栄養行政の概要を把握・体得する事を目標とする。臨床栄養学の臨地実習においては、栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験学習する。	公衆栄養学実習は、予防栄養の重要性を理解し、健康の保持増進、疾病の一次・二次・三次予防のための栄養教育、地域における健康実態の把握・分析など一般住民に対する健康増進活動・地域保健活動に必要な能力を養うことを目標とする。臨床栄養学実習は、栄養・給食関連マネジメント能力を養う。														◎	◎	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 統合的能力						
1-1;1-2	2-1;2-2;2-3;2-4	3-1;3-2	4-1;4-2	5-1;5-2;5-3;5-4											
17UFNB3106	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身に付ける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。		○		○		○	○		○		
17UFNB1107	多職種協働グループワーク実践論	1	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を実践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工学情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。	①学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身に付ける。								○	○	○◎	○◎